

次世代運転管理システムに関する技術開発 ～GPSを用いた運転管理システムの基礎技術開発～

1. 制度の概要

列車の速度オーバーによる事故を未然に防ぎ、鉄道的安全性に対する社会的要請に応えるため、複数の信号メーカーと鉄道事業者で構成された「技術研究組合」が行う次世代運転管理システム「GPSを用いた運転保安装置」の基礎的技術の確立などを目的とする社会的、先進的な技術開発を支援する。

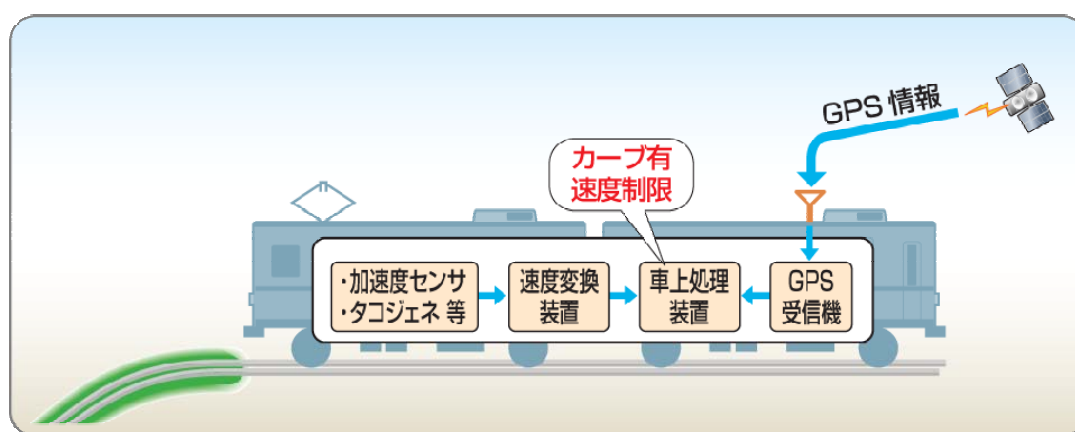
- (1) 補助対象事業者 次世代運転管理システム技術研究組合
- (2) 補助率 技術研究組合が行う技術開発に要する費用に対し、国が1/2補助（技術研究組合 1/2）

2. 研究の概要とその成果

GPSの故障や測位誤差の良否判定を確実にし、信頼性を確保することにより、地上設備を用いずに曲線部や分岐などで連続的に速度制限（ブレーキ制御）を行う運転保安システムの基礎技術を開発した。

[事業規模 170百万円：平成19～20年度]

この基礎技術の開発成果をもとに、実用化を推進する。



GPS：全地球測位システム（Global Positioning System）

人工衛星を使い、現在位置を割り出す測位システム。もともとは軍用として開発されたが、現在では、カーナビゲーションシステム、携帯電話等で広く使用されている。